

「次世代エネルギーは活用できますか？」

●半蔵さんからの質問

東シナ海や日本近海に眠るメタンハイドレートは重要な次世代エネルギーの核です。実用化出来れば日本は資源大国になり、今後数十年先を見据えても重要な国家戦略の柱にもなりえるとも素人目には思えるのですが・・・但し、実現には電力の自由化であったり既得権を脅かされ困る国内外の巨大な圧力もあるだろうとも思えます。開発・実用化に何年かかるのかは詳しく分かりませんが、これこそ政治主導でこれから先の日本の為に取り組むべき課題ではないかと思っております。

●西田昌司の答え

「これまではエネルギーを原子力に頼っていた。安価で安定的と言われていた原子力だが、福島事故があったではないか。原子力の割合を減らして他のエネルギーに移行すべきだ。しかし、既得権益を守りたい電力業界は新規参入を阻んでいる。誰もが自由に太陽光等の様々なエネルギーを供給できるようになれば、現状を打破できるのではないか」といった話をよく聞きますが、これはちょっとでも考えれば途端に破綻する論法です。

電力会社による発送電一体の現在では、需要に合わせて供給の調整が可能です。夏の甲子園のような電力のピーク時は、貯めていた揚水を落として発電する等の方法で対応しています。また、夏に雷が落ちても停電はほとんどありませんし、停電しても瞬時に回復します。電力会社に安定した電力を供給する義務を負わずことで、日本では極めて品質の高い電力システムを実現しています。これを発送電分離にしてしまうと、送電側は発電をしないので需要に合わせた電力供給の責任を持てなくなり、非常に脆弱なシステムとなってしまいます。アメリカで発送電分離をした結果、2003年に大停電

が発生し、市民生活や産業界に大きな打撃を与えました。

原子力発電をベース電源（一定量の電力を供給する電源）として稼働させていた頃は電力使用率に余裕があり、火力発電はミドル電源やピーク電源（時間帯によって変動する電力を供給する電源）として稼働させていました。万が一どこかの発電所でトラブルが発生しても、余裕のある火力発電でそれを補って停電を回避できるシステムになっていました。しかし原子力発電を止めてしまった今、火力発電にベース電源としての役割をも持たせており余裕がありません。新しい火力発電所を作るにしても10年程度はかかりません。もしもどこかの火力発電所でトラブルが発生すれば大規模な停電になりかねません。「全ての原子力発電所を停止させても、電力使用率は数パーセントの余裕があるから原子力発電は必要ない」という意見も聞かれますが、それには原子力以外の発電が全て順調に行われていることが前提となります。また、原子力発電を火力発電で代替することによる燃料費の増加は年に3兆円以上にもなり、このままでは日本は破綻してしまいます。メタンハイドレートやその他の次世代エネルギーが開発できれば、原子力発電が無くても困らないことになるかもしれません。しかし現時点では技術が確立されておらず、少なくともこの数十年は実用化は無理です。

電力自由化・発送電分離・脱原発・卒原発といったようなことがさかんに言われていますが、これまでに構築した安定した電力システムを投げ出して非常に脆弱なものにすることにしかありません。電力自由化や発送電分離を叫ぶ人の根底には「何でも自由化や効率化をすれば良い」という思い込みがあります。しかし、電力会社が非効率な経営を続け、品質が悪いのであれば電力自由化・発送電分離も「善」になりますが、日本の電力システムは極めて品質が高いのです。また、脱原発や卒原発を叫ぶ人の根底には、原子力に対する恐怖心があります。確かに原子力発電は放射線による健康被害のリスクがありますが、国連科学委員会は年間100ミリシーベルト以下の低線量率放射線は人体に全く影響がなく、福島原発事故による人体への影響はないとの結論を出しています。原子力発電のリスクがゼロでないからという論法で原子力発電を止めてしまうと、産業停滞のリスクを抱えてしまいます。

工場も鉄道も動かさず、病院では24時間稼働し続けなければならない人口呼吸器が止まって手術もできない、となると間違いなく命を落とす方が出てきます。原子力発電を再稼働するリスクと原子力発電を止めるリスクを比較すると、再稼働するリスクの方が圧倒的に小さいのです。

反原発を掲げる人の中には、日本を脆弱化したいと思っている人がいます。反原発運動の先鋒の方々が、原発問題以外で何を言ってきたかを考えるとよくわかります。反原発運動の裏には、菅元総理を典型とする左翼活動家が出て、日本の国力を喪失させようという意図で活動しています。エネルギー問題に関してはまたお話したいと思いますが、脱原発は数十年は無理だということをお答え申し上げます。

反訳：ウッキーさん

Copyright：週刊西田 <http://www.shukannishida.jp>